

研究課題	未来を幸せに生きる力を育む主体的・対話的で深い学びの推進
副題	～全教育活動での「Google for Education」の活用を通して～
キーワード	未来を幸せに生きる力、主体的・対話的で深い学び、問題解決能力 コミュニケーション能力、Google for Education
学校/団体名	公立久慈郡大子町立生瀬小学校
所在地	〒319-3511 茨城県久慈郡大子町高柴 1974
ホームページ	https://www.daigo.ed.jp/namase-syo/

1. 研究の背景

本校は、2つの複式学級を有する山間部の全校児童39名の小規模校である。児童は素直で明るい、積極性や表現力に欠け、自分から進んで学ぶ意欲や他者と協働するコミュニケーション能力が十分ではない。そこで、令和2年度から、上記のような研究課題を掲げ、19台配備されていたChromebookを学校全体で共有して研究に取り組んだ。その結果、ICTを活用し、特にクラウドによる共有や自動保存(keep)が、個別学習化に有効であり、児童の「主体的・対話的で深い学び」を促進することを実感した。そこで、さらにICT(Google for Education)を活用して研究を進めようという結論に至った。大子町では、平成29年度から、「Google for Education」を導入していたが、すぐに一人一端末が整備されたわけではなかったため、今回の助成でICT環境を整えて研究をスタートさせることができた。

2. 研究の目的

令和2年度の研究を引き継ぎ、本校教育理念「未来を幸せに生きる力を育む教育の推進」の基、令和3年度校内研究課題を「未来を幸せに生きる力を育む主体的・対話的で深い学びの推進～全教育活動での「Google for Education」の活用を通して～」とした。そこで、「未来を幸せに生きる力」を「課題解決能力(=自立する力)」「コミュニケーション能力(=協働する心)」として、問題解決能力とコミュニケーション能力の育成をこの研究の目的とした。

授業はもちろん、全教育活動で「Google for Education」を有効に活用し、「主体的・対話的で深い学び」による資質・能力の育成を推進していけば、未来を幸せに生きる力(課題解決能力・コミュニケーション能力)が育成されるだろう」という仮説を立て、研究に取り組むことにした。

3. 研究の経過

本研究は、大子町が推奨する「6K(協働/共有/Keep/活用/個別最適化/可視化)」の考え方をすべての教育活動で意識し、「Google Workspace(旧G-Suite)」を全教育活動で全面的に活用した実践研究である。

以下は、今年度の主な実践事例である。

月	授業等	学校行事・校内研修等	その他
4月	・校内研究授業 23年複式学級	・校内研修 (Googleclassroom) 開設	・研修用図書購入 ・ipadの購入

～ 7月	<ul style="list-style-type: none"> ・AI学習ドリル「Qubena」の活用（年間） ・デジタル教科書の活用（56年算数科） ・論文プロジェクトチーム結成 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研究協議 全職員」 ・町内・他市町村からの学校視察受け入れ 大子町立西中学校 EDL社 	<ul style="list-style-type: none"> ・インク等の購入 ・ワコム（ペンタブレット）の購入 ・Chromebook購入（教務使用全体マネジメント用）
夏休み	<ul style="list-style-type: none"> ・オンライン個別面談 ・Chromebook持ち帰り 		<ul style="list-style-type: none"> ・家庭での Chromebook 使い方確認
9月 ～ 12月	<ul style="list-style-type: none"> ・臨時休業中のオンライン活用（全校朝会、全校体育等） ・臨時休業中 Chromebook とipadを活用したデュアル・モニターでのオンライン授業 ・遠隔教育研究授業（ワコムペンタブレット使用） ・校内研究授業 1年 45年複式学級 6年やまびこ学級 	<ul style="list-style-type: none"> ・臨時休校中オンライン個別面談 ・第1回筑波大学留学生オンライン交流会 ・校内研究協議 全職員 ・町内・他市町村からの学校視察受け入れ 常陸大宮市立大宮北小学校 	<ul style="list-style-type: none"> ・論文応募 ・県指定遠隔教育
冬休み	<ul style="list-style-type: none"> ・Chromebook持ち帰り 		<ul style="list-style-type: none"> ・家庭での Chromebook 使い方確認
1月 ～ 3月	<ul style="list-style-type: none"> ・臨時休業中のオンライン活用（全校朝会、体育体育等） ・臨時休業中 Chromebook とipadを活用したデュアル・モニターでのオンライン授業 	<ul style="list-style-type: none"> ・臨時休校中オンライン個別面談 ・オンライン授業参観 ・オンライン学年懇談会 ・第2回筑波大学留学生オンライン交流会 ・高知県中筋小学校とのオンライン交流会 	<ul style="list-style-type: none"> ・Google 活用ライブラリー研修
常時	<ul style="list-style-type: none"> ・Google for Educationを活用した授業（スライド、Google Jamboard、Google Forms、Meet等） ・毎週金曜日オンライン宿題配信 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週水曜日職員研修実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週金曜日 Chromebook 持ち帰り

4. 代表的な実践

(1) 筑波大学留学生との交流

令和3年度大子町と筑波大学連携に係る事業の一環として、本校は、日本の教育を学んでいる各国から来日した8名の留学生と交流会を行った。交流会は2回行った。その際、児童は、助成金で購入させていただいたワコムペンタブレットを使用して、Google スライドでプレゼン資料を作成することができた。以下、「Google for Education」を活用した交流の様子をまとめた。

① 事前準備

ア 教職員同士のチャットルーム開設

担当者同士が気軽に情報交換ができるように、Google Chat に「筑波大学と生瀬小の連絡ルーム」を開設し、児童と留学生の簡単なプロフィールや写真の交換、日程調整を行った。教師が児童と留学生のグループ分けをした後、児童は、自分たちと留学生の写真を使用して、グループを Google スライドにまとめた。



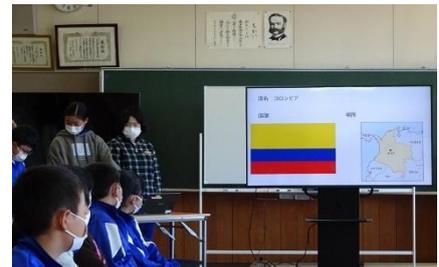
② 第1回交流会

ア 令和3年11月11日（木）実施：対面（留学生が大子町に前泊して来校）

イ 内容

㊦ 456年生と留学生のプレゼンテーション

456年生は、同じグループの留学生の国について Google スライドにまとめ発表した。留学生も、民族衣装などを持参し、プレゼンソフトを使い自国を紹介した。



㊧ 全校交流会（対面式・授業参観・全校給食・全校遊び）

1校時、体育館に全員が集まって、生瀬小学校の児童から自己紹介をした。1年生から全員が簡単な英語を交えた挨拶をした。授業参観では、Chromebook を活用している場面も参観してもらった。また、児童と一緒に、校庭や裏山（学校林）で給食を食べたり、全校で鬼ごっこ遊びなどをしたりして、交流を深めた。



③ 第2回交流会

ア 令和4年2月24日（木）実施：オンライン（留学生、児童ともに、各自宅から配信）

イ 内容

臨時休校中になってしまい、456年生の交流予定を急遽全校交流にし、全校児童は各家庭から Google Meet を使って交流会に参加した。交流会は、主に留学生が日本について感じたことをプレゼンし、児童は質問や感想を発表した。児童の中には、留学生に英語で質問する者もいた。また、低学年も積極的に感想を発表することができた。オンラインではあったが、コミュニケーションを図ることができた。



④ 事後の交流

交流の様子は、保護者へ動画（YouTube 限定配信）や学校だより、学校ホームページで配信した。また、町の広報誌や新聞社にも取り上げられ、学校の活動の様子を家庭や地域に知らせることができた。このような活動について児童が周りの大人から称賛の声を掛けられることで、「課題解決能力」や「コミュニケーション能力」を高める活動を客観的に振り返りたいへん良い機会となった。また、留学生との交換用チャットルームも開設し、帰国後もやり取りできるような環境も整えた。



⑤ 交流会の成果

第1回目の交流会では、緊張して留学生の方を向いて自己紹介できない低学年もいたが、慣れてくると自分が知っている英語で身振り手振りを交えて話し掛けることができた。高学年は、身振り手振りはもちろんだが、翻訳アプリを使って、積極的に英語で話し掛けることができた。児童と留学生の間に ICT が入り、お互いの交流の潤滑油になったことは、コミュニケーション能力が高まる一助となった。また、言語だけに留まらず、留学生の母国を ICT を活用して調べてまとめることができ、問題を解決しようとする能力も高まった。



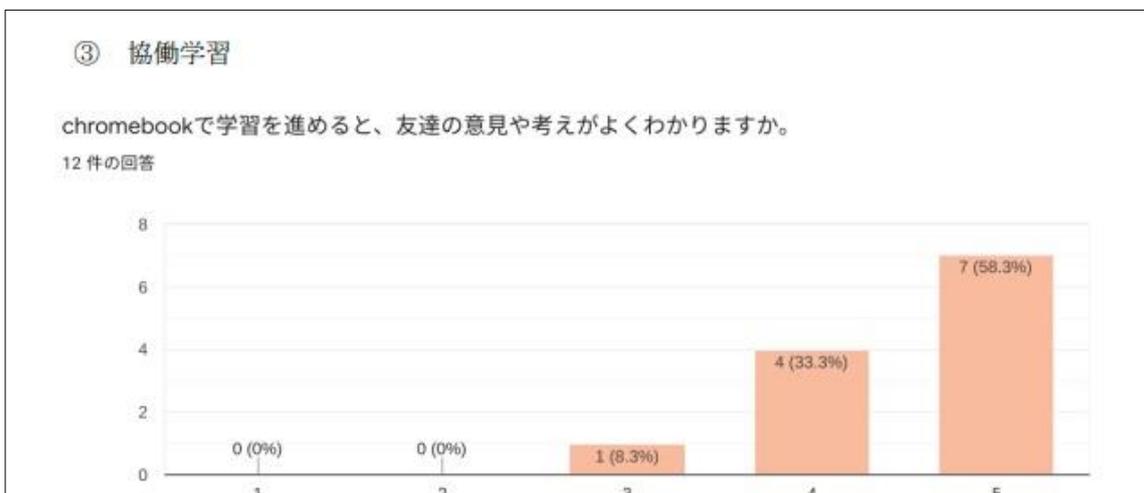
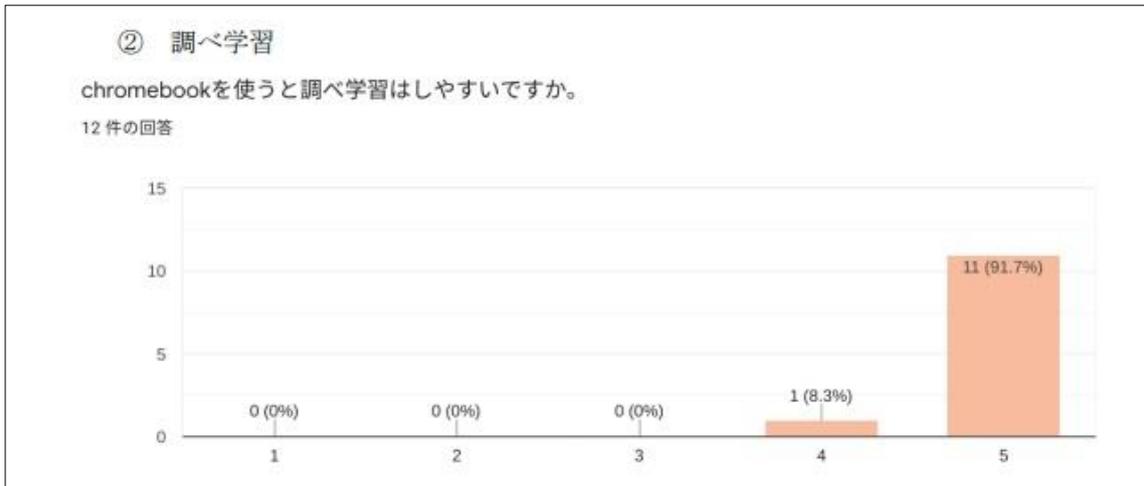
5. 研究の成果

(1) 児童の変容

ICT 活用について児童（56年 12名）にアンケートをとったところ、下記のような結果が出た。

【Chromebook を活用した学習についてのアンケート結果】

- ※ 1 そう思わない 2 どちらかといえばそう思わない 3 どちらでもない
4 どちらかといえばそう思う 5 そう思う



課題解決能力やコミュニケーション能力の項目では、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の回答率が高い。児童は、自信をもって ICT に関わってきたことがわかる。冒頭で、『ICT を活用し、特にクラウドによる共有や自動保存 (keep) が、個別学習化に有効であり、児童の「主体的・対話的で深い学び」を促進することを実感した。』と述べたが、児童も ICT を活用することによって、これまでにない変容を体験できたのではないだろうか。

(2) 教師の変容

本校の職員は、令和 2 年度から、本格的に Chromebook を使い始めた。コロナ禍と重なって必要に迫られて使用が始まったが、それぞれが ICT と正面から向き合ってスキルを高めた。このような教師の関わりが、児童の変容にもよい影響を与えた。

教員 6 名、複式支援員 2 名、計 8 名の直接授業を行う教師に「教員の ICT 活用指導力チェックリスト」(平成 30 年改定 文部科学省)に回答してもらった。

※教員の ICT 活用指導力チェックリスト 本校結果 (大項目のみ 4 と 3 の回答率表示)

・令和3年9月28日実施
 ・回答者 8名 (平均年齢 53才)

4択回答	4 できる								
	3 ややできる								
	2 あまりできない								
	1 ほとんどできない								
									4と3の割合 (%)
A	教材研究・指導の準備・評価・校務などにICTを活用する能力								87.5
B	授業にICTを活用して指導する能力								87.5
C	児童生徒のICT活用を指導する能力								87.5
D	情報活用の基盤となる知識や態度について指導する能力								87.5

(3) 研究論文執筆

研究と同時進行で、校長、教務主任、ICT 研究主任、養護教諭が論文プロジェクトチームを立ち上げて研究の成果をそれぞれの立場で発表した。

校長	令和3年度茨城県教育研究会 教育論文 「優秀賞 (県知事賞、県教育研究会長賞)」
養護教諭	令和3年度茨城県教育研究会 教育論文 「奨励賞」
教務主任	令和3年度茨城県教育弘済会 教育に関する研究論文 「優秀賞」
ICT 研究主任	令和3年度茨城県教育弘済会 教育に関する研究論文 「優良賞」

それぞれの視点からまとめた本校の研究が認めてもらえたことは、この上ない自信につながった。

6. 今後の課題・展望

- ・今年度の研究成果を来年度にも生かしていく。職員が異動等で代わることも想定できるので、4月には新しい職員を交えた職員研修の機会をもち、ICT 教育の内容を確認し、更に新しい取り組みにも挑戦できるような体制作りを進める。
- ・本校の今年度の取組を、近隣の小中学校と共有し、町全体の ICT 教育のレベルアップにつなげていく必要がある。

7. おわりに

研究当初は、ICT 環境整備が急務であったにも拘わらず機材が揃わない状況でしたが、助成をいただいて ICT 環境が充実し、順調に研究を軌道に乗せることができました。この研究が有意義な成果を収めることができたのは、パナソニックの皆様のご尽力のお蔭と、職員一同感謝しております。ありがとうございました。

8. 参考文献

- ・小学校 学習指導要領 (平成 29 年告示) 文部科学省 平成 29 年 3 月告示
- ・Google Workspace for Education で創る 10X 授業のすべて イーディーエル株式会社監修 東洋館出版社

